

電気けいれん療法によるせん妄とレビー小体病を示唆する臨床兆候および機能画像の

異常との関連に関する研究

1. 研究の対象

2017 年 10 月から 2025 年 9 月までに当院精神科病棟に入院し、電気けいれん療法を受けた患者さん

2. 研究の期間

研究倫理審査委員会承認後～2027 年 9 月 30 日

3. 研究目的および意義

レビー小体型認知症（DLB）は幻覚妄想や抑うつなどの精神症状で発症する症例も少なくありません。この場合、発症当初は高齢発症の統合失調症やうつ病と診断されて治療されるため、薬物療法に抵抗性がある場合や緊急性が高い病態では、電気けいれん療法を実施して治療をすることがあります。電気けいれん療法は、治療後にせん妄になることがあります。せん妄は、もともとせん妄を生じやすい背景がある場合は、せん妄が誘発される可能性がより高くなることが予想されます。DLB はせん妄を起こしやすいことが知られており、将来 DLB になる可能性がある状態でも同様にせん妄を起こしやすいと考え

られています。そのため、将来 DLB になる可能性がある患者さんに電気けいれん療法

を行った場合は、せん妄を生じるリスクが高くなる可能性があると考えられます。

今回の研究の目的は、高齢で発症した統合失調症やうつ病に対して電気けいれん療法に

よる治療を受けられた患者さんで、レビー小体病を示唆する臨床症候や機能画像の異常

の有無と治療によるせん妄の発生率との間の関連性を探索的に検討することです。

また、この研究の結果が、将来的には、電気けいれん療法によるせん妄のリスク予想を

含む個別化医療に貢献できる可能性があることが、この研究の意義になります。

4. 研究の方法

指定の期間の入院カルテを参照し、当院の精神科で電気けいれん療法を受けた症例を特

定し、そのカルテ内容を参照して、実際の臨床症状と心理検査および画像検査の結果、

治療によるせん妄の発症の有無を確認し、結果を分析します。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの年齢、性別、診断、心理検査 (MMSE) および画像検査 (MRI、脳血流 SPECT、

DaT-SPECT、MIBG 心筋シンチグラフィー)、心電図検査の結果、臨床症状 (幻覚、パ

ーキンソン症状、睡眠時行動異常、自律神経症状)、電気けいれん療法によるせん妄発

症の有無

* MMSE：Mini-Mental State Examination（ミニメンタルステート検査）、MRI：磁気共鳴画像法（Magnetic Resonance Imaging）脳血流 SPECT：脳血流単一光子放出コンピュータ断層撮影（Single-Photon Emission Computed Tomography）、DaT-SPECT：ドパミントランスポーターシンチグラフィ、MIBG 心筋シンチグラフィ：¹²³I-メタヨードベンジルグアニジン心筋シンチグラフィ

6. 研究組織

東京都健康長寿医療センター 精神科 松井 仁美（研究責任者）

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なご対応ができない場合がありますことをご了承ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

精神科 松井 仁美（研究責任者）

電話 03-3964-1141 （平日 9：00～17：00）

-----以上